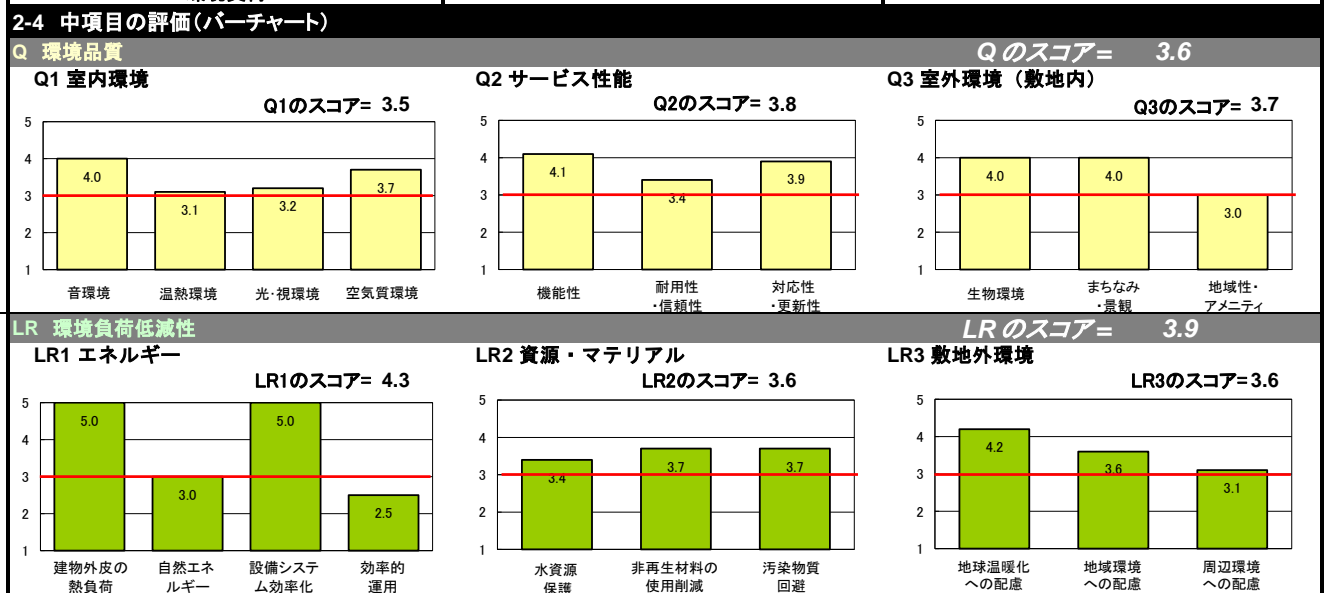
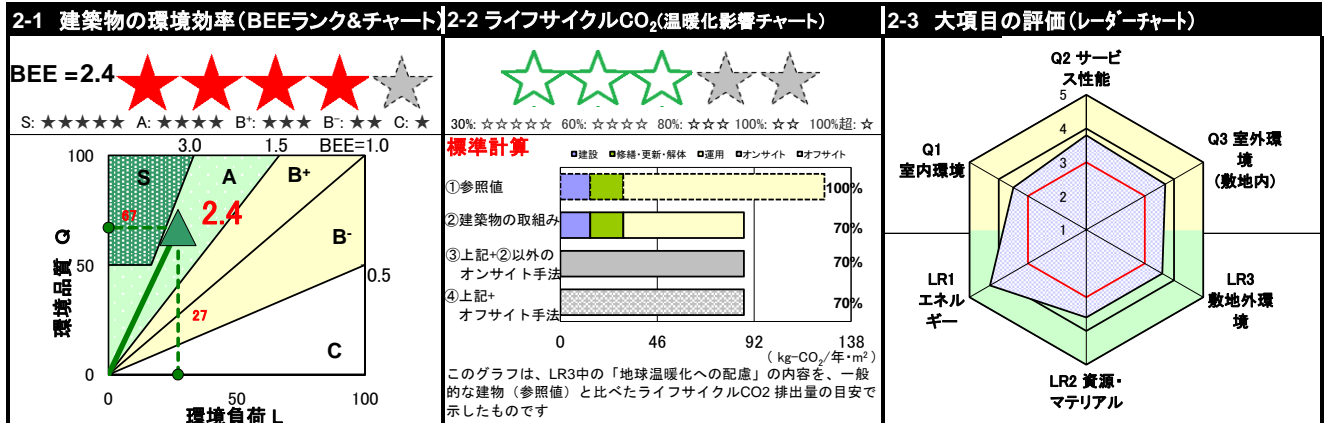


CASBEE®名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システムマニュアル2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)錦2丁目オフィスPJ	階数	地上14F、地下1F
建設地	名古屋市中区錦二丁目316-2,323,324,325,326-1	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	3,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,110 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年7月 予定	評価の実施日	2025年10月29日
敷地面積	2,840 m ²	作成者	
建築面積	1,925 m ²	確認日	2025年10月29日
延床面積	24,002 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<p>地域とつながり、街に開かれたオフィスビルを創造し、錦2丁目のエリア価値向上を図る設計とした</p> <p>また環境と災害時に配慮した持続可能な計画を行ない、有事の際にも安心なBCP対応として、自家発電機を備え、72時間、貸室内にも電源を供給可能。14階には防災倉庫を設け、防災用資材を備蓄し災害に備える</p>	特に無し	
<p>Q1 室内環境</p> <p>執務者が快適に過ごせるよう騒音・遮音(吸音)・照度・空気質に配慮した環境計画を行なっている</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>執務室は床荷重4900N/m²かつ高負荷対応が可能な計画としており、また法令水準以上の非常用発電設備があり、建物の基幹機能や共有部におけるサービスが可能であり、専有部に対しても一部の電力供給が可能である</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>敷地内および建物外壁面に植栽を設け、良好な景観を形成している</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>省エネ計算結果 BPI=0.80、BEI=0.60</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>リサイクル材の積極利用や再利用可能な建材の使用、また節水・省水型機器の採用による省資源へ寄与している</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>適切な量の駐車・駐輪スペースを確保し、敷地周辺に渋滞が発生しないよう配慮した計画としている</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)錦2丁目オフィスPJ

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.2
LR1	エネルギー	4.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.5
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.090773188	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009077319	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045386594	
3. 循環型社会				3.6
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.2



2. 自然共生

評価点 = 3.5



3. 循環型社会

評価点 = 3.6



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。